

田村のつぶやき 第39号

2025.2.22 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

にほん or にっぽん

突然ですが、「日本」という漢字を何と読んでいますか？ 「にほん」それとも「にっぽん」？ 具体例を挙げてみます。「日本語」を「にっぽん語」と読む人は、ほとんどいないのではないのでしょうか。多くの人が「にほん語」と読んでいます（少なくとも私はそう読んでいます）。では「日本銀行」は？ 「にほんぎんこう」と読む人もいますが、紙幣（正式には日本銀行券）の裏面にはローマ字表記で「NIPPON GINKO」と印刷されています。つまり「にっぽん銀行」が正式な読み方ということです。では「日本列島」は？ これは「にほん列島」派と「にっぽん列島」派に分かれそうです。そのほか、例えば「日本航空」「日本大学」「日本書紀」「日本酒」などは「にほん」、「日本郵政」「日本体育大学」などは「にっぽん」と読み、その読み方は混在しています。

一般的に「にほん」は柔らかく、「にっぽん」は力強い響きがするといわれ、スポーツの日本代表チームは「にっぽん代表」と呼ばれ（最近では「〇〇ジャパン」という呼び方が主流ですが）、応援でも「にっぽん」が使われるのはそのためと言われます。最近のオリンピックでは「JAPAN」の表記がプラカードにもユニホームにも使われていますが、日本が初めて参加した1912（明治45）年のストックホルム大会ではプラカードの表記は「NIPPON」でした。1964（昭和39）年の東京五輪でもユニホームには「NIPPON」と書かれていました。

そもそも、日本が自国のことを「日本」と表記するようになったのは7世紀後半頃だとされます。しかし、その時は「にほん」や「にっぽん」ではなく「やまと」と呼んでいました。奈良時代になると日本は中国の唐と国交が盛んになり（遣唐使の派遣）、この頃、中国では「日本」のことを「日の本（ひのもと）の国」という意味で「ニエットプアン」（niet puæn）と呼んでいたようです。日本人はこの発音を真似して自国のことを「にっぽん」と呼ぶようになりました（諸説ありです）。一方、「にほん」という呼び方が広まったのは江戸時代になってからとされます（こちらも諸説ありです）。江戸時代の国学者・本居宣長（もとおりのりなが）が国名の由来についてまとめた著書『国号考』（こくごうこう）には「新たに日本（にほん）という」と記されており、江戸時代には「にほん」という呼び方が登場してきました。一説によると、「にほん」という呼び方はせっかちな江戸っ子たちの早口によって生まれたとされ、「にっぽん」→「にふおん」→「にほん」と簡略化されたとのこと。そのため、大坂など西の地域では「にっぽん」、江戸を中心とする東の地域では「にほん」と呼ばれ、現在でも、大阪にある「日本橋」は「にっぽん橋」、東京にある「日本橋」は「にほん橋」と呼ばれ、その名残をとどめています。

その後、何度か国名としての「日本」の呼び方を統一しようという議論が国会でもなされましたが、結論は出ませんでした。2009（平成21）年、麻生太郎内閣の時に、この論争によりやく決着がつかしました。かつて出雲市長を務め、その後国会議員となった故 岩國哲人（いわくに てつんど）氏が、国の呼び名を「にほん」と「にっぽん」どちらにするのかと、麻生総理大臣に正式に質問主意書を提出しました。この質問に対して、麻生総理は、「にっぽん」又は「にほん」という読み方については、いずれも広く通用しており、どちらか一方に統一する必要はないと考えていると回答しています。そのため、「日本」の国の呼び方は「にっぽん」と「にほん」どちらでもよいということになっています。